

◆ 新宿都税事務所長賞 ◆

「知らなかった税金の使い道」

新宿区立牛込第三中学校 第三学年 松浦 怜央

「えっ、陽性なの？」

昨年、我が家にもとうとう新型コロナウイルスがやってきてしまった。感染しないようにずっと手洗い、うがいはもちろんのこと些細なことをはじめ考えられる対策は口酸っぱく言われてきたこともあり、小学五年生の終わりからずっと実践してきたので家族内に感染者は出なかったのに。

まずは妹が発熱しその後、父も感染が判明。妹は幸い発熱してすぐに解熱したが父は高熱が数日間続き相当辛そうだった。これ以上、家庭内感染を拡げないようにと隔離部屋を作ったり、母と一緒に出来る限りの対策を考えて全て実行に移し、幸いなことに母と僕は感染しなかった。

父の発熱後、東京都から紹介を受けた医師による電話診察があり、保健師さんからも電話が入り、翌日には解熱剤等の薬と共に検査キットや食料品が矢継ぎ早に家に届いた。同時に希望していた宿泊療養施設にも速やかに入ることができた。父は都が用意してくれたタクシーで宿泊療養施設へ向かった。見送りながら、これでやっと父も安心な場所で療養出来る、ほっとした事を覚えている。聞くところによると、この施設では毎食お弁当や飲み物が出たとのこと。このような東京都のコロナ患者への安心な対応は東京都の予算で賄われており、全て税金によるものだということを僕はあとになって知った。

税金というとながらすぐに思いつくのは身近な消費税だ。今の消費税は価格から計算しやすい率だが、ものを買うときに、例えば、百九十円だと消費税込みで二百九円となり、百円台ではなくなり急に高く感じてしまう。それに働いてお金を得ていない僕たちが消費税という形で税金を払うことに少し疑問をいだくこともある。

しかし、国民が払っている税金がこういったコロナ対策などにも使われていると考えれば、決して欠かせないものであり、自分自身としても納得することができた。

もし同じ状況で、診察・薬・宿泊療養施設が自費であったら、また東京都のサポートがなかったら、こんなに早く父は回復できたのだろうか。宿泊療養施設が高額なら、入らずに自宅ですべて我慢していたかも知れない。こういった緊急時の行政サービスを受けることができるのも税金があるからこそ成立するのだと自分の経験を通し税金の大切さを知ることが出来た。

自分はまだ学生であるが社会人になったら今回の体験を通して、自分の家族のため、誰かのために納税しているのだという思いをもち続けて納税していきたいと思う。